

# 近年になく厳しい財政状況 市政運営の基本姿勢をただす



## 市民参画の視点で施策を展開

今定例会の総括質問では、新平塚市総合計画・改訂基本計画第三次実施計画の策定をはじめ平塚市の組織改革に議論が集中しました。経済の分野では、競輪事業の売り上げ状況、環境の分野では、里山づくりの今後の展開、福祉の分野では、介護保険制度の利用実態、教育の分野では、総合型地域スポーツクラブの設立や放課後児童健全育成事業などについて質疑が行われました。そのほか、追加提案された新町工場跡地購入にかかる債務保証についても議論が集中しました。これらの質疑内容を、各常任委員会での質疑も併せて二、八面に紹介いたします。(質問を行った議員名は、この紙面の下段に掲載します。)

議員 市長に就任以来七か月が経過し、新平塚市総合計画・改訂基本計画第三次実施計画の策定や十六年度の当初予算編成にも着手されているが、市長は現在の財政状況をどう認識しているのか。  
市長 就任時においては、市債残高減に伴う公債費の減少や職員数の削減に伴う人件費の減少が見込まれることから、比較的財政状況には明るい兆しがあると認識していた。

しかし、現状は競輪事業における車券売り上げの減少、高齢化の進展による医療費などの負担増や景気の低迷による扶助費の増加が例年以上に見込まれることから近年になく厳しい状況にあると認識している。  
議員 財政は近年になく厳しいという認識だが、どのように市政運営を行っていく考えなのか。  
市長 「行政が負うべき責任を果たせるのか」という視点から市政運営を考え、優先課題や市民参画での観点で事業展開を図っていききたい。  
議員 市長の公約はどのように予算に反映させる考えなのか。  
市長 十六年度からの第三次実施計画に位置づけ、予算を計上していきたい。  
議員 事業や施策の選択に当たっては、「時のアセスメント(公共事業再評価ルール)」という考え方を取り入れるのと、具体的なにはどのような基準で行うのか。  
市長 継続して実施している事業が「時の変化」

という視点から適切であるかどうかを基準としていく考えである。  
老朽化した市庁舎等公共施設の再整備  
議員 近年の本市の財政力指数は県下でも良好な数値を示しているが、十四年度の経常収支比率は八八・五％であり、財政は硬直化している。市庁舎等の老朽化している施設の再整備はどのように考えているのか。  
市長 これら大型施設が

老朽化し、再整備が迫っていることは認識しており、財政状況や全体の事業費等を勘案して十九年度から始まる新しい総合計画に位置づけていきたいと考えている。  
中・長期の財政計画  
議員 本市の今後の十年間には、新環境事業センターや新市庁舎の建設、駅周辺整備等の大型事業が迫っているため、中・長期の財政計画を明らかにした「平塚市財政ビジョン」の作成が必要と考えるが、見解を伺いたい。  
市長 日本経済のグローバル化に伴い世界経済の影響が大きいため、長期の経済予測が難しく、国の税制改革等の動向により市税収入が大きく左右されることから、長期の財政見通しを的確に把握することは困難である。そのため、財政ビジョンの作成は非常に難しいと考えている。

### 新総合計画

## 16年度開始の第3次実施計画

## 事業選定の経過尋ねる

議員 新平塚市総合計画・改訂基本計画の第三次実施計画は、十六年度から三年間の主要な事業を定めることになるが、事業の立案に当たって、事業計画の評価はどのように行ったのか。  
市長 事業の目的の妥当性等を評価する目的性、実現性等六項目を設定して評価を行い、「実施計

画に位置づける事業」などの三つに区分した。  
議員 第三次実施計画の実施に当たって市長の基本的な考え方を伺いたい。  
市長 市政運営の基本である市民と行政が協働したまちづくりを進め、「ひと、まち、自然」などで創るいきいきひらつかの実現を図っていききたい。  
議員 事業の実施結果を

どう評価していくのか。  
市長 計画の着実な推進と事業実績を次年度にフィードバックするため、継続的に計画事業の進行管理評価を行っていき。  
次期総合計画策定の考え方  
議員 新平塚市総合計画に係る改訂基本計画と第三次実施計画は、十八年

開、効果的な行政運営、市民サービスの向上、さらには第三次実施計画の円滑な推進を観点に進めてきた。その結果、防災安全部や消費生活担当の新設、工事および備品等の購入の契約事務の一元化、税務事務の再編などを行い、市民生活の安全や効果的な事務の執行を図ることとなる。  
組織のスリム化  
議員 今回の組織改革では、一部、一課、二担当の増となるが、組織のスリム化にはどのように取り組んだのか。  
助役・企画部長 数的には増えているが、基本的にはスクラップアンドビルドの考え方で組織改革を進めてきた。結果的に増となったが、課や担当の整理統合や廃止を行い、これからの行政課題に取り組み体制づくりを行った。

度で終了するが、次の総合計画策定の考え方を伺いたい。  
市長 現在の総合計画を策定した当時と現在では、社会経済情勢などが大きく変化しているため、十六年度から計画策定に入る予定の次の総合計画は、基本構想から見直しを行っていき。時代の変化に柔軟に、また的確に対応でき、市民共有の目標となる平塚の将来都市像を明らかにする計画を策定していきたいと考えている。

推進することとした。  
議員 各部内に政策担当を設けたが、企画課の位置づけはどうなるのか。  
企画部長 広範多岐にわたる市民ニーズに的確に対応するため、各担当部署で検討した内容を政策として決定していく段階で、企画課は全体的な調整や関係部署との連携を図ることとなる。  
組織のスリム化  
議員 今回の組織改革では、一部、一課、二担当の増となるが、組織のスリム化にはどのように取り組んだのか。  
助役・企画部長 数的には増えているが、基本的にはスクラップアンドビルドの考え方で組織改革を進めてきた。結果的に増となったが、課や担当の整理統合や廃止を行い、これからの行政課題に取り組み体制づくりを行った。

助役 これまで災害時に企画部長は、総合対策班、秘書班、広報班、職員班、初期対応班、総合防災基地、地域拠点基地の七つの分野を統括しているが、防災安全部を設置することにより、防災安全部長は指令的な機能を、企画部長はその他の事務部門や組織の調整機能を担うことになると考えている。

## 就任後初の当初予算編成 市長の方針聞く

議員 来年度の当初予算編成は、市長就任後、初めて手がける通年予算であるが、予算編成の基本的な考え方を伺いたい。  
市長 予算編成の基本方針は、第三次実施計画の推進、行政改革の推進、市民参加・参画の行政運営、事務事業再評価の実

に対応できる行政運営を実現するため、市民の目線に立ち、市民参加・参画を得て、市民と協働した事業の展開を図ることとしたことである。  
議員 市長のキーワードには、平和事業の推進があったと思うが、この点はどうのように考えているのか。  
市長 平和事業の予算はさらに充実していきたいと考えている。

○平塚クラブ  
吉野和美・杉山善彌・須藤量久・黒部栄三・臼井照人・落合克宏  
○平塚までしこ21議員団  
山原栄一・栗田己好・水野泰助

○公明党平塚市議員団  
高梨孝治・永田美典・松崎清子  
○日本共産党平塚市議会議員団  
松本敏子・田中幸雄  
○神奈川ネットワーク運動  
武藤藤子  
○このほか、ひらつか企画室、ひらつか市民の党、市政クラブの議員も質問を行いました。

### 市の組織再編

## 安全安心のまちづくり目指し 防災安全部を新設

議員 今回の組織改革では、各部内に政策担当を設けたが、企画課の位置づけはどうなるのか。  
企画部長 広範多岐にわたる市民ニーズに的確に対応するため、各担当部署で検討した内容を政策として決定していく段階で、企画課は全体的な調整や関係部署との連携を図ることとなる。

議員 今回の組織改革では、各部内に政策担当を設けたが、企画課の位置づけはどうなるのか。  
企画部長 広範多岐にわたる市民ニーズに的確に対応するため、各担当部署で検討した内容を政策として決定していく段階で、企画課は全体的な調整や関係部署との連携を図ることとなる。

議員 今回の組織改革では、各部内に政策担当を設けたが、企画課の位置づけはどうなるのか。  
企画部長 広範多岐にわたる市民ニーズに的確に対応するため、各担当部署で検討した内容を政策として決定していく段階で、企画課は全体的な調整や関係部署との連携を図ることとなる。

議員 今回の組織改革では、各部内に政策担当を設けたが、企画課の位置づけはどうなるのか。  
企画部長 広範多岐にわたる市民ニーズに的確に対応するため、各担当部署で検討した内容を政策として決定していく段階で、企画課は全体的な調整や関係部署との連携を図ることとなる。